

# プロスタグランディンI<sub>2</sub>のマウス大腸癌における肝転移抑制に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Nishimura, Motoichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00066603">https://doi.org/10.24517/00066603</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# プロスタグランディンI<sub>2</sub>のマウス大腸癌における肝転移抑制に関する研究

Research Project

All

## Project/Area Number

05770915

## Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

## Allocation Type

Single-year Grants

## Research Field

Digestive surgery

## Research Institution

Kanazawa University

## Principal Investigator

西村 元一 金沢大学, 医学部・附属病院, 助手 (90208215)

## Project Period (FY)

1993

## Project Status

Completed (Fiscal Year 1993)

## Budget Amount \*help

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Fiscal Year 1993: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

## Keywords

抗血小板作用 / プロスタグランディンI<sub>2</sub> / 肝転移モデル

## Research Abstract

抗血小板作用を有するプロスタグランジンI<sub>2</sub>の転移抑制効果を検討する目的で、マウス肝転移モデルに投与した結果、

1, マウス大腸癌細胞であるColon26細胞(10<sup>6</sup>個/ml)0.1mlをCDF1マウスの腸間膜静脈に注入し肝転移モデル作成し、そのモデルの平均生存期間を観察したところ約10日間と安定していた。

2, 癌細胞注入翌日にプロスタグランジンI<sub>2</sub>を100μg/kgの割合で投与し(治療群), 生理的食塩水投与の対照群と比較したところ, 投与後7日目における肝表面の転移個数にはほとんど差は認められなかった。しかしながら, 治療群では生存期間の延長を認めた。

プロスタグランジンI<sub>2</sub>投与による癌細胞の転移能および増殖活性の変化を検討するため各種抗増殖因子抗体, 抗インテグリン抗体, 抗増殖期細胞抗体を用いて免疫組織染色を行い検討を行ったが, 今回の投与量では明らかな差は認められなかった。

以上より, プロスタグランジンI<sub>2</sub>は転移抑制効果を有する可能性が示唆された。

## Report (1 results)

---

1993 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05770915/>

Published: 1993-03-31 Modified: 2016-04-21